

写真家K君のこと

大平 忠

K君はかつての会社の一年後輩である。現役時代から写真はプロ級の腕前だった。撮影対象は多岐にわたる。タイに駐在していた時代は、休みをとって東南アジア諸国の少数民族を探して辺境の地を歩いてきた。日本に帰っては、動物特に鳥類や地方に残る有名無名の祭りを訪ねては撮影している。いつの頃からか、二科会写真部の会友となり、出展は無審査だそう。K君は日本中どこへ行くのも車であり、四駆の後部を自分で設計して改造し、寝泊まり・自炊ができるように作られている。

例年だと二月の今頃は青森県北東端の尻屋崎にいて、吹雪の中を走る「寒立馬」かんだちめをカメラ片手に追いかけているはずである。「寒立馬」は、昔からこの地に住む南部馬の一種で野生のまま放牧されていると聞く。彼は愛車を駆って門司から出かけ吹雪の中で野営するのだ。残念、今はコロナ禍のため県外は行けずストレスが溜まっているに違いない。

彼は何でも徹底する男である。まず門司に家を作った理由からしてすごい。関門のあたりは渡り鳥の通過場所で撮影にもってこいなので作ったそう。屋内にカメラを固定し、庭に鳥が来るやすぐに撮る。撮った鳥の種類は今までに三十七種類、中でもキアオジという超珍鳥が一昨年やって来た時は興奮したという。日本では二回しか写真に撮られていないそう。

さらに、これはという祭りには何年も続けて行き、その地の人と仲良くなってしまうのである。例えば、阿波踊りの先頭の踊り手とか、山形・鶴岡の神社の神主とかは顔馴染みとか。驚いたのは、佐賀バルーンフェスティバルの時、世界各国からやってきていたバルーンのチームに飛び込んだことがあった。聞くと、毎年なので何人かと親しくなったのだそう。

しかし、じっとしてられるK君ではない。我慢できずに県内ならよかろうと二月から三月博多湾にやってくる絶滅危惧種クロツラヘラサギを追いかけているかもしれない。

K君よ、コロナには用心しろよ。